

—ささきさんが最初にプロジェクトに入つてみて感じた課題は？

ささき 今野さんがおっしゃるとおり、商品数も多く、一個一個つくるのがとても大変だと感じたので、ある程度商品数を少なくしないといけないだろうなと思つていました。だからといって「じゃあ売れ筋の物だけを残してあとはやめよう」と一気に整理するのは相当の賭けでもあるし、わたしもみんなもこころの負担になつてしまつと思つたので…。結果、一個ずつ丁寧に整理していくことに。また、今の状況では商品がいっぱいありますぎて、みどり工房のメッセージが伝わらないんじやないかという心配もありました。やっぱり、自分たちが何を伝えたいかはつきりさせることで見えてくるものがあると思うんですね。みどり工房のやる気と熱意には圧倒されるものがありましたので、ここにクリエイターが入ることで、そのモチベーションをうまくいかすことができるのではないかと思いました。だから一緒にやってみたいなど。一方で、メンバーがやらされてる感じだとおもしろくなくなつてしまふので、対等な関係を心掛けていました。



—「はい、これが名前ですよ」と一方的に提案するのではなく、みんなで悩んで時間がかかるようになつたんですね。 「どうやってお客様に接客したらいいか」と家で考えてくるようになつたんですよ。 「どうやつてお客様に商品をオススメしたいのか」とか、以前は販売会に行ってから考えていたのですが、ひとつ目の名前ができるごとに、考え方の広がりと一体感ができます。

—「はい、これが名前ですよ」と一方的に提案するのではなく、みんなで悩んで時間がかかるようになつたんですね。 「どうやつてお客様に接客したらいいか」とか「英語のつづりは？」とかみんなで調べたりして、そういう歩みも良かつたと思います。さらに、ささきさんの「楽しさの風を送る」というコンセプトをつけてもらつたときは、とてもうれしかつたです。

—そういうメンバーや文字や絵を、少しづつ商品と一緒につけていくのもおもしろいですね。

今野 それに、ただ決めるのではなくて「他にこういう名前がないか？」とか「英語のつづりは？」とかみんなで調べたりして、そういう歩みも良かつたと思います。さらに、ささきさんの「楽しさの風を送る」というコンセプトをつけてもらつたときは、とてもうれしかつたです。

—アイデンティティを持つた商品になりましたよね。さらに、ロゴをメンバーが描くのも新たな試みだつたのではないかでしょうか？

ささき そうですね。デザインされているフォントは世の中にいっぱいあるんですけど、あえてメンバーの味のある文字をいかそっと考えました。

今野 私も商品開発のなかでメンバーの可能性をとても感じました。作業のなかでは文字を書くこともないですし。こういうデザインのある文字を書けるんだなあと感じました。

—実際にロゴを見て「ここがわたしの書いたところ」と話すメンバーの姿も印象的でした。

ささき 今野さんがおっしゃるとおり、商品数が多く、一個一個つくるのがとても大変だと感じたので、ある程度商品数を少なくしないといけないだろうなと思つていました。だからといって「じゃあ売れ筋の物だけを残してあとはやめよう」と一気に整理するのは相当の賭けでもあるし、わたしもみんなもこころの負担になつてしまつと思つたので…。結果、一個ずつ丁寧に整理していくことに。また、今の状況では商品がいっぱいありますぎて、みどり工房のメッセージが伝わらないんじやないかといふ心配もありました。やっぱり、自分たちが何を伝えたいかはつきりさせることで見えてくるものがあると思うんですね。みどり工房のやる気と熱意には圧倒されるものがありましたので、ここにクリエイターが入ることで、そのモチベーションをうまくいかすことができるのではないかと思いました。だから一緒にやってみたいなど。一方で、メンバーがやらされてる感じだとおもしろくなくなつてしまふので、対等な関係を心掛けていました。



今野 ブランド名をつけてからみんながわっていつたんです。津波で畑もなくなり、今まで選択できる作業がなくなり、今出来うる作業が手芸になつたのです。震災後農作業から手芸へメインの作業が変わったので、戸惑いもありました。だから、わたしたちスタッフ・メンバーも試行錯誤で自分たちの商品を築きあげていきました。方向性はバラバラでしたけれど(笑)ブランド名会議は、その3年間のなかで抱いていたそれぞれの気持ちを表せる機会に



なりました。それで一休感がでてきたんですね。「こういう思いでやつていたんだ、伝えたいんだ」ということがわかつたんです。そしてようやく自分たちの商品は、みどり工房＝自分たちの思いを発信するツールで、なおかつお客様に喜んでいただけるものだという認識が生まれたように思います。fun fanシリーズというのもすごくなるじんで、「販売会でお客さまに fun fan